

高等学校

- 1 主題名 生命尊重の心
- 2 資料名 「生命(いのち)の尊厳、豊かに生きるとは……」(自作資料)
- 3 指導について

私たちのだれもが、「自分は生きている」と考えている。そして、豊かに生きたいと願っている。また、一人一人に尊ばれるべき生命があることを否定する者もない。しかし、物質的に恵まれた環境にあり、健康に毎日を過ごしていると、生命の尊さについて考えることはあまりない。そのような中、生命の尊厳に気付き、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもち、自分に与えられた生命を精一杯輝かせて生きることの大切さを共に確認し合いたい。

本資料は、奈良県の高等学校教員が、インドの「死を待つ人の家」でボランティアをしたときの体験に基づく手記である。作者の「過酷な運命を背負わされ必死に生きた人が、だれにもかえりみられず、ゴミのように路上で死ぬべきでは絶対はないのだという怒りにも似た思い」に着目し、人間の尊厳や生命の尊厳について考えたい。さらに、生物的生命のみならず社会的生命の視点からも生命を考え、真の「豊かさ」とは何か、人間として「豊かに生きる」とはどういうことなのかを共に考え合い、自らの生き方へとつなげていきたい。

4 ねらい

コルカタの「死を待つ人の家」で息を引き取ろうとしている一人の女性の中に、今、生きていることの証を見た作者の体験を基に、人間の尊厳・生命の尊厳とは何かを考え合うとともに、自他の生命を尊重しながら自分に与えられた生命を精一杯輝かせて豊かに生きていこうとする心情を養う。

5 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1 「生命」や「豊かに生きる」ことについての考えを出し合う。	○ 「生命」を感じる時とは、どんなときですか。また、「豊かに生きる」ということをあなたはどのように考えますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の誕生や死に接したとき。</li> <li>・災害のニュースを聞いたとき。</li> <li>・物質的に恵まれた生活。</li> <li>・精神的に豊かな生活。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に意見を出し合わせ、本時の学習内容にスムーズに入っていきけるようにする。</li> <li>・生徒の意見を類型化して黒板に整理する。</li> <li>・事前にアンケートを実施し、結果を提示するのよい。</li> </ul>	
展 開	2 資料「生命の尊厳、豊かに生きるとは……」を読んで考える。	○ その人が私の顔を見つめながら手を握り返したとき、私が何かに貫かれたように動けなくなったのはなぜでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・その人に「死」ではなく「生」を感じたから。</li> <li>・その人は今確かに生きていると実感したから。</li> <li>・手を握り返してくれたその力に、生きようとする力強さを感じたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人の中に「死」しか見ていなかった私が、その人の中に流れる「生命」を感じたことに気付かせる。</li> </ul>	資料①

展 開	<p>3 自分の生活を振り返り、「生命の尊厳」や「豊かに生きる」ことについて互いの考えを交流し合う。</p>	<p>○ 「ゴミのように路上で死ぬべきでは絶対でない」と作者が思ったのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 人の生命や死はそのように粗末に扱われてはならない。</li> <li>• その人は今まで精一杯生きてきたのだから、そのことをねぎらう意味でもきちんと看取られるべきだ。</li> <li>• 過酷な運命を必死に生きてきたのだから、最後は静かに見守られて死を迎えさせてやるべきだ。</li> <li>• その人は自分のためだけではなく、だれかのためにも生きてきたはずなのだから、感謝を受けて見守られて生命を全うするべきだ。</li> </ul> <p>◎ 「生命の尊厳、生命の大切さ」についてあなたはどのように思いますか。また、「豊かに生きる」とは、どのように生きることだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生活の貧しさや豊かさに関係なく、だれの生命も同じように尊いということ。</li> <li>• 人間はだれもがこの世の中に必要とされて生まれ、生きているということ。</li> <li>• だれの生命も重んじられなければならないからこそ、見捨てられて死ぬべきではない。</li> <li>• 自他を大切に精一杯生きることが、豊かに生きることではないか。</li> <li>• 自分が必要とされていると感じられる生き方ではないか。</li> <li>• だれかのために何かができる。自己が生かせる生き方ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• この部分は、人間尊重の精神、生命に対する畏敬の念<small>いけい</small>に基づく人間愛に裏打ちされたマザーの活動の根本精神にも通じるところである。生まれ育った国や地域、性別、貧富にかかわりなく、人間の生命はみな等しく尊いことを押さえたい。</li> <li>• 自分の考えを書いた後、小グループで意見交換をしたり、全体で交流し合ったりするなど、多様な意見を交流させるようにする。</li> <li>• 「豊かに生きる」の「豊かさ」について、多様な意見を交流させる中から、物質的な豊かさのみならず、精神的な豊かさ<span>に</span>迫らせ、自他の生命を尊重し、精一杯生きることが、「豊かさ」につながることを確認し合いたい。</li> </ul>	ワークシート
終末	<p>4 資料②を読み、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○ 資料②を読んで、「生命の尊厳」や「豊かに生きる」ということについて、今日の授業を通して考えたことをまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の生き方を振り返りながら記述させる。</li> </ul>	資料②

## 6 高等学校第2学年での実践から

事前にアンケートをとり、生徒が「生命を感じるのはどんなときか」を把握しておいた。アンケート結果を見ると、身近に生命の誕生や死に接したときや災害などで多くの生命が奪われた報道を見聞きしたときと回答している者が多かった。

資料は教員が範読し、資料の状況をより分かりやすくするためスライドを見せながら補足説明を行った。自分たちの日常とはあまりにもかけ離れた状況ではあるが、作者の体験は生徒たちにとっても深く心に響くものであったようだ。教室はしんとした雰囲気、生徒たちは資料に引き込まれていた。

そして、「『死』を目前にした女性の中に作者が『生命』を感じ、『ゴミのように路上で死ぬべきでは絶対ない』と思ったのはなぜだろう」と問うと、「今まで一生懸命生きてきたのだから、ゴミのように扱われて死ぬことは許されないから」「過酷な運命を生きてきたのに、最後くらいはちゃんと扱われるべきだから」という意見が出た。生命は大切に扱われるべきものであるという生命の尊厳に考えを及ばせながら、作者に共感できたと思われた。しかし、生徒の言葉の「今までつらかったのだから」とか「死ぬときぐらい」という表現の中には、「インドのこの女性は不幸であった」という捉え方があることを感じた。そこで、「この女性は豊かには生きてこなかったのだろうか」という発問を補足して考えさせた。補足発問をしたことで、生徒は、女性のこれまでの生き方に目を向けたり、真の豊かさとは何かについて考えを深めたりすることができた。

【「生命の尊厳」についてどう思いますか。】

- 人は生まれるときと死ぬときは選べません。神様が与えた「平等」とはそのあたりのことを指すのだと思います。今、毎日毎日、事件が起こり、死者が絶えない日々が続いています。子が親を、親が子を……。考えられない世の中だけれどこれが事実です。一人一人のことを大切に考えられる人になりたいと思います。
- 最近人を簡単に殺したり、自分で生命を絶ったり、生命の重さが全然分かっていない。人を簡単に殺すような世の中になったから、どの国でも死に対してなんとも思わなくなっているのだと思う。身内以外は関係がないからと思っているからいけない。自分他人、みんな同じ一人の人間なのだから、もっと生命の尊さ、大切さを考え直す必要がある。
- 人はみんな平等でなければならないので、一人一人大事だと思います。しかし今は、悲惨な事件が多々起こっています。もっとそれぞれ自分で生命の大切さについて深く考えるべきだと思います。とはいっても、こういうことを日常生活で考えることはあまりありません。だからこそ、こういう時間にまじめに考えるべきだと思います。
- 私たちの知らない世界で、こんな悲しいことが起きているんだなあと思いました。私たちにとって食事や勉強は当たり前だけれど、そうじゃない人もたくさんいるので、大切に思わないといけないと思いました。普段はあまり感じることは少ないけれど、生命にかかわるニュースや本や映画を見たり聞いたりしたら、その大切さを改めて実感することが多いです。
- 私が生きて、みんなと仲良く話したり遊んだりしていることに感謝したいと思います。世の中には生きたいけれど生きられない人がたくさんいるので、「死にたい」なんて思わないようにしたいと思います。

【「豊かに生きる」とは、どのように生きることだと思いますか。】

- 短くても長くても、一日一日精一杯笑って、精一杯泣いて生きること。
- 大切な人がこの世にいること。大切にしたい人が身近にいること。涙を流せる人になりたい。悔いのない人生を歩みたい。素直な心をずっともてる人でありたい。
- 金銭的な事じゃなくて、人間としての優しさとか思いやりとか自覚だと思います。
- 食べ物がない、生活できるお金がない、じゃなくて、だれもがみんな平等に生活すること
- 「心」が豊かであればそれでいいんじゃないでしょうか。貧しくても幸せな人もいる。生活が豊かなことだけがすべてではないでしょう。すべては自分自身なのです。
- 死ぬときに、今まで生きてきてよかったとか楽しかったとか思えるように生きることだと思う。
- 経済的にも精神的にも満たされて生きること。
- 豊かさというのは、経済的な豊かさと精神的な豊かさがあると思う。経済的な豊かさとはお金もそこそこあり、何一つ不自由なく好きなことをして暮らしていけることだと思う。精神的な豊かさとは、例えば貧しくとも、または辛いことがあったとしても、いつもプラス思考であり、毎日が楽しいと思ったり、私って今幸せだなあと思ったりすることであると思う。では、どちらの方が豊かなのだろうか。経済的に豊かであっても心の中が貧しければ本当の豊かさではないと思う。やはり、「自分はやってきた」というような達成感や満足感を感じたとき、豊かに生きたということになるのではないか。「豊かに生きる」それは人間として誇りをもって生きることだと思う。
- 私はこの女性はとても強い人だと思った。過酷な状況の中で彼女は彼女として生きた。自分自身から逃げ出さなかった。みんなの意見を聞いていると、この女性に対する「哀れみ」が多い気がした。みんなの考える豊かさとは物質面のことだけだろうかと思わせられる。一番の豊かさは、自分を見つめ、自分をまっとうして生きていくことだと、私は考える。

ワークシートに書かせるだけでなく、書いたことを互いに交流し合い、更に考えを深めることができるようにしたい。そのため、1時間で扱うのが難しい場合は、2時間扱いにしたり、1単位時間を延長したりするなどして、個々の意見を十分に交流し合える時間を確保したい。また、生徒や教員の思いを通信等を通じて生徒や保護者に伝えるなど、日常生活の中でも共に考え合う機会をつくるのが大切である。



インドのコルカタにある「ニルマル・ヒリダイ」は、マザーテレサが路上で死にそうになっている人々を連れてきて、<sup>さいご</sup>最期をみとる施設として1952年に開設されました。ヒンディ語で「清い心」という意味のこの施設は、「死を待つ人の家」と呼ばれています。

開設された当時、コルカタには200万人ともいわれる路上生活者がいました。路上で生まれ、路上で煮炊きをして食事をし、路上から働きに出て、路上で眠り、路上で死んでいく人々です。そして、路上で死を迎えた人は、やがて市のトラックがやってきて「回収」されていくのです。

マザーは人間らしい最期を迎えさせることを願い、この施設開設のために奔走しました。しかし、町の人々は、マザーの活動を、「どうせ死んでいく人になぜ、わざわざそんなことをするのか。まるでゴミを拾っていくようなものだ。」と冷ややかに見つめるだけでした。

ところが、その後、町の人々はマザーの活動に心を動かされ、彼女の信念に賛同していきます。さらに、この「死を待つ人の家」には世界中からボランティアがやってきます。ボランティアといっても、期間も資格も定められていません。1日だけの人も、何年もボランティアをしている人もいます。一体何が、町の人々や世界中の人々の心を動かしたのでしょうか。

私はある年の夏、「死を待つ人の家」を訪れ、21日間のボランティア活動に参加しました。次の文は、その日々の中で私が体験したことです。

ある朝、粗末だけれど清潔な白い布に包まれてこの「家」を旅立っていった名も知らぬ人を、私はただ頭を垂れて見送りました。

その人はほんの3日前、この街の路上で、<sup>ほこり</sup>埃と<sup>あか</sup>垢にまみれたまま、その生命を終えようとしていたのです。この「家」に運ばれてきたとき、この人の生命が終わりに近いことはだれの目から見ても明らかでした。近くにいた私と他のボランティア2人は、その女性をお風呂に入れるよう生命じられました。「こんな<sup>ひんし</sup>瀕死の人をお風呂に？」と思いましたが、ここでは清拭用の道具などなく、新しく運ばれてきた人は皆、風呂に入れて頭を刈ることになっているのです。

汚れたサリーを脱がそうとすると、その女性は大変嫌がりました。息も絶え絶えなのに、私たちの手を必死で振り払うのです。風呂といっても水なので、少しずつ掛けても悲鳴を上げ、顔は苦痛にゆがんでいます。やっとベッドに運んだ後も、小さな声で悔しがっていました。彼女には、入り口に近い下段のベッドが与えられました。これは、病が重篤であるということを意味します。次は朝食です。朝食といっても簡単なもので、シリアルとサモサ、バナナ。しかし彼女は一口も飲み込むことができず、チャイさえ<sup>のど</sup>喉を通りませんでした。苦痛のためか、<sup>まゆ</sup>眉をしかめ、怒っているように見えました。

次の日の朝、彼女のベッドに行くと、前日よりも弱っているような感じがしました。朝食もやはり口にできません。<sup>うつ</sup>虚ろな<sup>ひとみ</sup>瞳は何を見ているのか分からず、薄く開いた唇も何も言おうとはしませんでした。私は心の中で、「どうか、私がいるときに亡くならないで。」とっていました。

ボランティアは、午前中のみ活動することになっています。午前中に入浴、朝食、洗濯、清掃などを行います。入浴のときはストレッチャーや車いすなどもなく、歩けない人はおぶったり、抱えたりして運びます。洗濯機ももちろんありません。それは、故障したときの修理費や電気代の節約のためでもあります。洗濯場には、便のついた布おむつが山と積み上げられています。大きな盥で洗って、屋根に広げて干します。私たちボランティアは、掃除、治療の手伝いなど、せわしくベッドの間を歩き回ります。その間も、おむつの汚れている人や「パニ、パニ（水、水）」と言って水を求める人への対応も行います。

その日も、いつものように駆け回っているうちに、午前が終わっていました。帰り際、エプロンを外しながらふと入り口近くのベッドを見て、私ははっとしました。昨日の女性が、穏やかで落ち着いた、神様のような顔をしているのです。私は「亡くなったのか!」と思い、ベッドのそばにひざまづきました。

手を握ってみると、まだ温かい。静かに息もしています。ほっとしているとその人は、私の顔をしっかりと見つめながら手を握り返したのです。私は何かに貫かれたように、動けなくなっていました。

(私の目の前にいるこの人は、生きているんだ。確かな生命がここにあるんだ。私はこの人のことを本当にただ「死を待つ人」としか見ていなかったのではないか。)

私は握られた手を離すことができませんでした。そして、その手に刻まれた深いしわを見つめました。

(この手は、私よりずっとずっと長い時を生きてきたんだ。ときには40℃を越す灼熱のインドで、学校にも通えず、満足な食事もできず、ひたすら働いて、子を産み育て、精一杯生きた人なんだ。)

静かに燃え続けている生命が、握った手のぬくもりを通じて私の中に流れ込んでくるような気がしました。そして、過酷な運命を背負わされ必死に生きた人が、だれにもかえりみられず、ゴミのように路上で死ぬべきでは絶対はないのだという怒りにも似た思いが湧き上がってくるのでした。

いつまでも座り込んでいる私に、そっとシスターが近付いてきて、私の手から彼女の手を取りました。そして私に帰るように優しく目配せをしました。

宿舎への帰り道、強烈な日差しを浴びながら、私はいつもと違う風景を歩いているようでした。裸足でリクシャを引く、自分の体重より重そうな荷物を背中に載せて運んでいる人、サリーをたくし上げてツルハシをふるう人、道ばたで無心に乳を飲む子ども、街に溢れる人々のだれもが輝いて見えたのです。

#### ※注

サリー…インドで、女性が身体に巻いて衣装とする長い一枚布

シリアル…コーンフレークやオート・ミールなどの穀物の加工食品

サモサ…コロッケの中身をギョウザの皮のようなもので包んで揚げたインド料理

チャイ…茶葉とミルクを一緒に煮込んだミルクティー

リクシャ…インドの3輪タクシー。バイクのエンジンを積んだ「オートリクシャ」と人力の「サイクルリクシャ」がある。

人間にとって最も大切なのは、人間としての尊厳をもつことです。  
パンがなくて餓<sup>う</sup>えるより、心や愛の飢えの方が重病です。

マザーテレサ

「いのち」を、「命」ではなく「生命」と書きたいと言った人がいます。生きているから「いのち」なのです。私たちのだれもが、「自分は生きている」と考えています。そして、一人一人に尊ばれるべき生命があることを否定する人もいません。しかし、生命について常に意識しているわけではありません。逆に、生命を軽く見してしまうことさえあるのです。

同様に、私たちのだれもが、「豊かに生きたい」と願っています。しかし、本当の豊かさとは何かを考えることはあまりありません。

「生命の尊厳」や「豊かに生きる」ことの確かさについて、私たちはもう一度、考え直す必要があるのではないのでしょうか。

特に、世界の中で豊かな国の一つであると言われている、日本に生きる私たちは……。

いのち  
生命の尊厳、豊かに生きるとは……

年 組 番 氏名

◆今日の授業で気付いたり考えたりしたことをまとめよう。

年 組 番 氏名

◆ 「<sup>いのち</sup>生命の尊厳、生命の大切さ」についてあなたはどのように思いますか。

◆ 「豊かに生きる」とは、どのように生きることだと思いますか。